びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312 メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/

今年度(2010年度)の第3回目の秋季の「森づくりサポーター活動」が10月10日(日)に行わ れました。サポーター30名とガールスカウト44名の参加がありました。当日、サポーターの皆さん は、2003年~2005年に苗木が植えられた「ふれあいゾーン」で、枝打や間伐の作業をしました。

この地区は、生長した樹木に傍の水路からクズがはい上がってからみつき特に見苦しい状態でした。 このため間伐とあわせクズの除去をしました。またこの地区で沢山植えられた「グミ」が繁茂しすぎ、 園路にも被ってきていたため、この枝打ちや剪定も併せて行いました。今回は何かと秋の行事と重なっ た方が多かったため、参加人数もいつもより少なかったのですが、気合いの入った作業で、おかげであ の絡みついたクズが1時間15分ほどできれいに除去されました。終わったあと、風通しの良いスッキ リした林と広くなった歩道空間が出現し、見ちがえるようなすばらしい公園空間にしていただきました。

ガールスカウトの児童は、中村實先生から「植物の種の広がり方」についてのお話(自然学習)を聴 きました。また「つどいのゾーン」の林の中に入ってコナラやクヌギなどのかわいい実生苗を掘り起こ し、これをポット苗として苗畑に定植しました。来年にはより大きくなって、植樹のつどいや植樹ボラ ンティア活動に活用できるようになると思います。

ガールスカウトはそのあと、間伐材などを利用したパーツアート(クラフト)づくりを楽しんでいま した。

また、この日、森に隣接する今浜自治会のコスモス祭りが行われていたので、サポーターの皆さんも 昼食時にこの祭りでふるまわれる「豚汁」をお相伴し、舌鼓で楽しみました。昨年は、新型インフルエ ンザが流行していたため、コスモス祭りの開催を自粛されたので、今年はこの楽しみが復活しました。



ビオトープシリーズ その2

琵琶湖におけるビオトープ保全について ~「マザーレイク21計画」~

前回は、ビオトープの定義や今なぜビオトープかなどについて述べましたが、今回は、琵琶湖におけるビオトープ、自然の保全のための「マザーレイク21計画」についてです。

滋賀県では、琵琶湖の総合的な保全を推進するため、琵琶湖と人との共生を基本理念に掲げて平成12年3月に「マザーレイク21計画~琵琶湖総合保全整備計画」を策定されています。実施に当たっては、県民、NPO や事業者さんたちと力を合わせてさまざまな対策をすることとされています。

計画策定の背景としましては、琵琶湖の湖辺域で、湖岸の人工護岸化や内湖の干拓、土地利用の変化などによって、自然生態系を構成しているネジレモやクロモ、マツモなどの水草が生育する沈水植物帯やヨシ、マコモ、ヤナギなどの植物が生育するヨシ群落、河畔林などの面積が減少するとともに、それらが分断、孤立化することにより構成生物相が貧弱化するなど質的にも低下してきた危機感から自然生態系の環境保全機能、また、その基礎となる生物多様性、ビオトープとしての働きなどを増強し、その量的、質的向上や連続性、一体性の確保を図る必要がでてきたことがありました。

この計画では、2010年度までの総合保全の第1期対策として、自然的環境・景観保全の分野では、ビオトープをつなぎネットワーク化するための拠点の確保が目標とされ、そのために重要な各種の施策が考えられました。この施策の重要なものの一つに、皆さんにサポートして頂き、みんなで育てていますびわこ地球市民の森の整備が位置づけられていました。



竹生島をのぞむ湖北の湖岸



びわこ地球市民の森のふれあい池

このほかの施策としましては、ヨシ群落保全条例による保全管理、自然公園事業や湖岸保全整備事業、都市 公園湖岸緑地整備事業や河川再生事業、生物環境アドバイザー制度を拡充することなどがありました。

第1期に続く2011年度から2020年度までの第2期対策として自然的環境・景観保全の分野では、**生物生息空間(ビオトープ)の拠点をつなぐネットワークの骨格の形成**が目標とされています。

また、おおむね2050年頃の琵琶湖のあるべき姿として、自然的環境・景観保全の分野では、**湖の環境を守る豊かな自然生態系のなかで、多様な生物の営みによって四季折々に美しい固有の景観を見せる琵琶湖が**期待されています。

これから第2期に入りますが滋賀県では、第1期で得られた新たな知見と経験に基づいて、予見的な取組に 重点を移しながら保全対策をさらに推進していくこととされています。このため、サポーターの皆さんから各 種の情報提供が頂けましたら先駆的な取り組みの一つであります**びわこ地球市民の森**から「マザーレイク21計 画」へ適切な自然的環境・景観保全に向けての情報発信をしていきたいと考えています。

植樹、間伐、除草作業などとともに森づくりセンターへの情報提供につきましても、どうぞよろしくお願い いたします

樹木の名前 豆知識シリーズ



生今回は、日本の代表的な樹木のうち、「松」、「梅」について、その名前と字の由来についてお届けします。 なお、このシリーズは、大人を対象にしています。

【松】

マツ科のマツ属の総称です。「松」は明るくどちらかというと乾燥ぎみの地を好み、樹皮はひびわ

れするものが多い。葉は針葉で、ふつうアカマツ、クロマツは二本、ゴヨウマツ、チョウセンゴヨウ、ハイマツなどは5本が束になった葉を形成しています。竹、梅あるいは鶴とともにめでたい取り合わせとされ、正月の門松にしたりしますね。

寒い冬にも耐え、常緑なので、長寿の象徴とされています。

日本語の「マツ」の語源は「たもつ」の意味の上略という説や、神がその木に降りてくるのを「待つ」ことから「マツ」になったとする説、葉が2つに分かれていることから「股(また)」が次第に「マツ」になったとの説があります。

ところで漢字の「松」は字のごとく「ぼっこう」とも読みますが、「松」の「公」は何を示しているのでしょうか。もともと「公」は閉ざされた部屋(囲い)をあらわす「□」から派生しました。その一方(上方)の壁(扉)を開けた状態を「八」が示し、囲いの中が良くみえるようにすることが「公」の字源です。つまり閉ざされた部屋の中の状態をみんなが見れるようにすること、現代でいうと「情報公開」というようなことでしょうか、まさに見えないところのものを「おおやけにする」ことが「公」なのです。では、その「公」と「松」とどういう関係があるのでしょうか。

松の生えている林等の状況を想像してみてください。滋賀県でもアカマツ林が沢山あります。また千本松原といってマツが連続する海岸や湖岸もあります。その松については枝振りが疎で下枝が枯れ上がっていきます。また、生育密度も成長が遅いものは光を得ないまま自然淘汰され、松だけで林が密生することは稀です。(ただし、灌木類や下層木で一見埋められている場合もあります。)また、葉も細く短いため(厳密にいうと、一般に葉とみえる松葉は一本一本が枝に生長します、葉はその根元にほんのちょっぴりくっついているのです。ですから、枯れて落ちたいわゆる松葉は落枝なのです。)見通しが良くきき、風通しも良い林をつくります。他のスギや常緑樹の林は鬱蒼として見通しのきかない林が多いのですが、枝振りが疎で葉の間から空や背景が透けてみえるような見通しの良い「木」というのが「松」の字源となりました。

【梅】

バラ科のサクラ属の樹木で、ウメにウグイス・・・春の到来を知らせる花です。春の気配が訪れると、白、 薄紅、紅色の馥郁(ふくいく)とした芳香のある花を葉に先だって咲かせます。幹がゴツゴツしているのが梅の 特徴です。個別の花を見ただけでは桜などと区別がつきにくいですが、桜に比べおしべ(雄蘂)が長く多数で 目立っています。

観賞樹としては庭や公園に好んで植えられていますし、花物の盆栽の代表格ともなっています。また、正月の寄せ植え、門松、花材に重用されます。実も梅干しや梅酒にするなど、もっとも日本人に親しまれています。また、「万葉集」や「古今和歌集」などに数多く詠まれています。菅原道真が藤原氏との政争から太宰府に左遷されることになったとき、庭の飛梅をみて詠んだ「東風(こち)吹くかば、にほひおこせよ梅の花 あるじなしとて・・・・・・」(「拾遺和歌集」)はあまりにも有名です。

また、中国の春秋時代の「晋」の武帝が「文を好めばすなわち梅開き、学を廃すればすなわち梅開かず」と言ったことから、別名「好文木」ともいいます。

もともとは中国原産で、奈良時代に遣隋使か遣唐使が日本に持ち帰ったといわれています。

和名は薬用にする鳥梅(うめ)、または梅の漢音meiから転訛したものとされていますが、江戸時代まで「うめ」は「むめ」と呼ばれていたそうです。

ちなみにその実が熟す初夏に雨が多いので「入梅」という言葉ができ、「つゆ」を「梅雨」と書くようになりました。また、江戸時代には、各藩が非常食として梅干を作ることを奨励したため、梅林が全国で見られるようになりました。

ところで「梅」の漢字には「母」がついていますね。母がどんどん子を産むことを示しているのが「毎」の意味で、多くの実(子孫)をならせ安産を助ける木として、「梅」という字になりました。そのためでしょうか、つわりのときに酸っぱいものが食べたくなるとかいわれますが(筆者は男ですので真偽のほどは?ですが)、中国では昔からつわりのときに梅の実を食べる習慣があるとのことです。

次回は、「桜」(さくら)のお話をします。

森 づくりトピックス

パーツアートを楽しむ

植樹活動や森の手入れなどの作業にこられた方に(主として子供 さん対象ですが)クラフトづくりを楽しんでもらっています。



走る!



材料はどんぐりやツバキの 実、マツボックリ、間伐した木 切れや枝などの「自然のめぐみ」 です。

はじめはどこから手をつけたら良いのかと思案して いますが途中から真剣な表情になり、一人一人の思いが こめられた作品へとできあがり、時間が足りないくらい 熱中して、力作が仕上がりました。



家族っていいな



なかよし

お知らせ

次回の森づくりサポーター・ボランティア活動

サポーターの皆さんには、年度初めに平成22年度の年間活動計画をお送りしているところです。本 年度第4回のサポーター活動として下記のとおり実施しますので、多数の方のご参加をお願いします。

実施期日 平成23年3月5日(土)

植樹地の除草・間伐・剪定

開催場所 びわこ地球市民の森 ふれあいゾーン

編集後記

びわこ地球市民の森もオープンして10年を経過しました。昨年秋期の植樹に より植栽本数は13万本の大台を超えました。植樹地の面積も増えて、これから は除草や間伐等管理作業がますます必要となってきます。

このため、引き続き皆様方の一層のご支援ご協力をお願いします。